

飼料自給率向上に向けた 平成21年度行動計画（案）

生産局畜産部

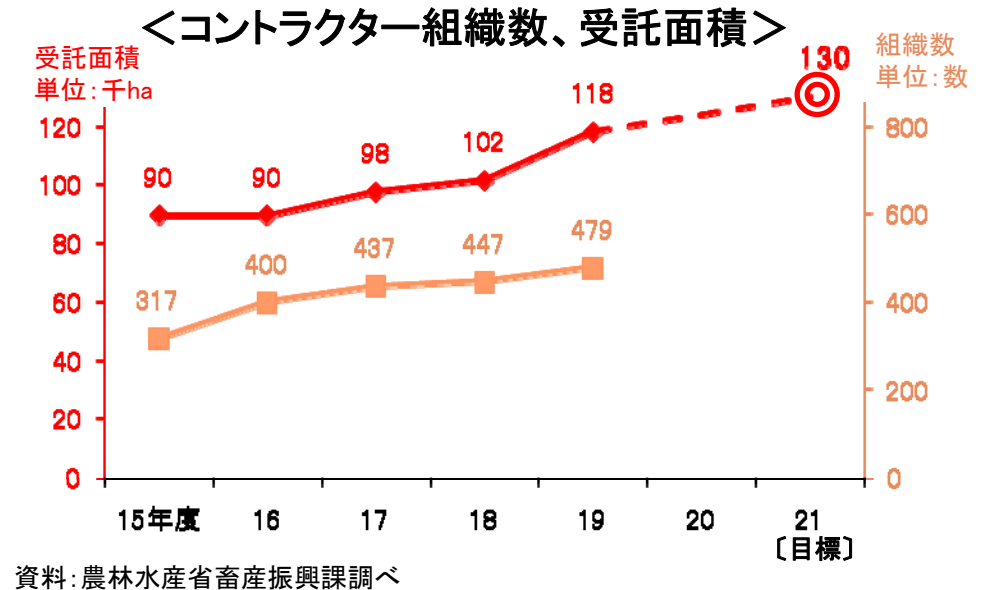
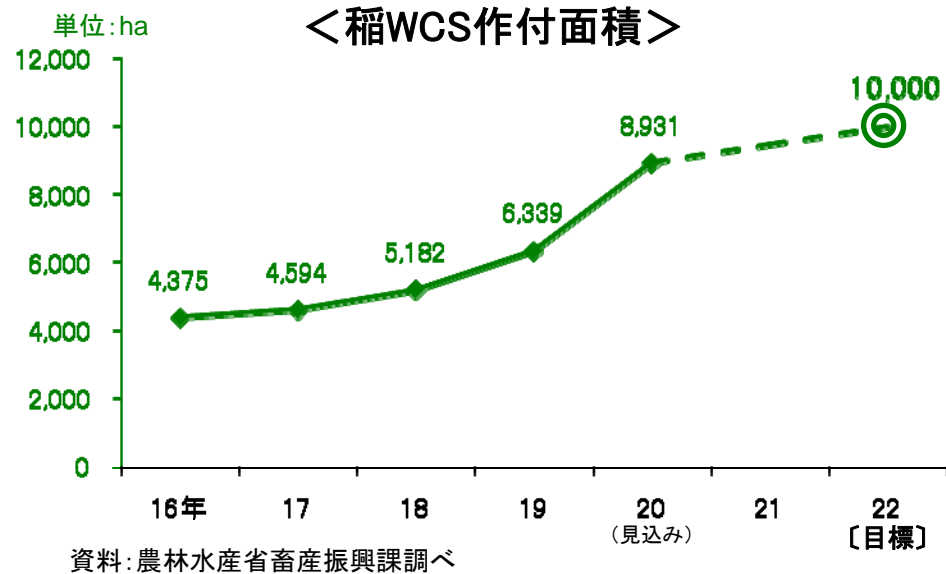
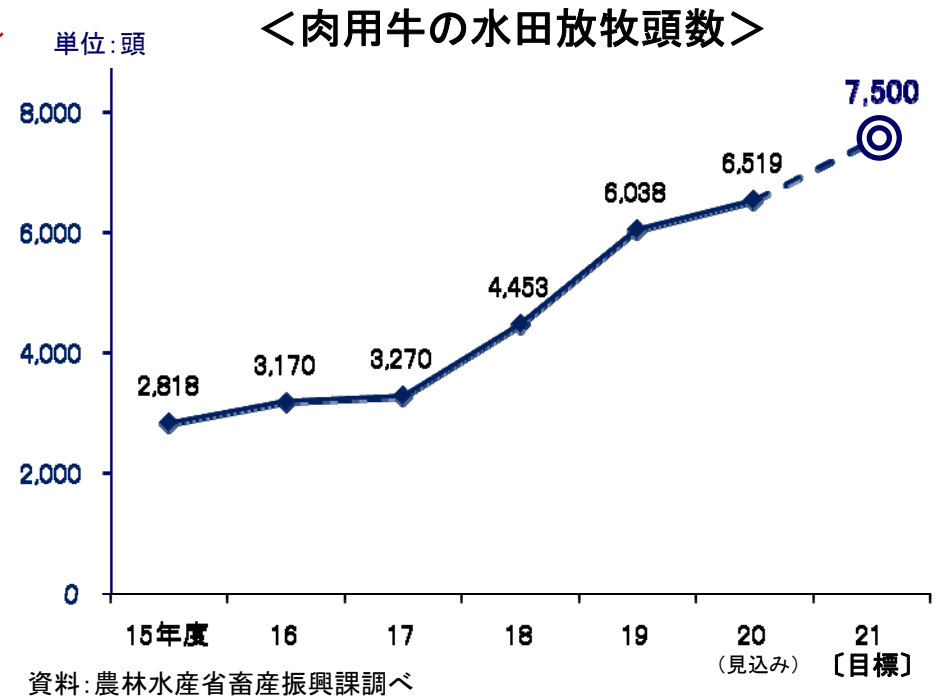
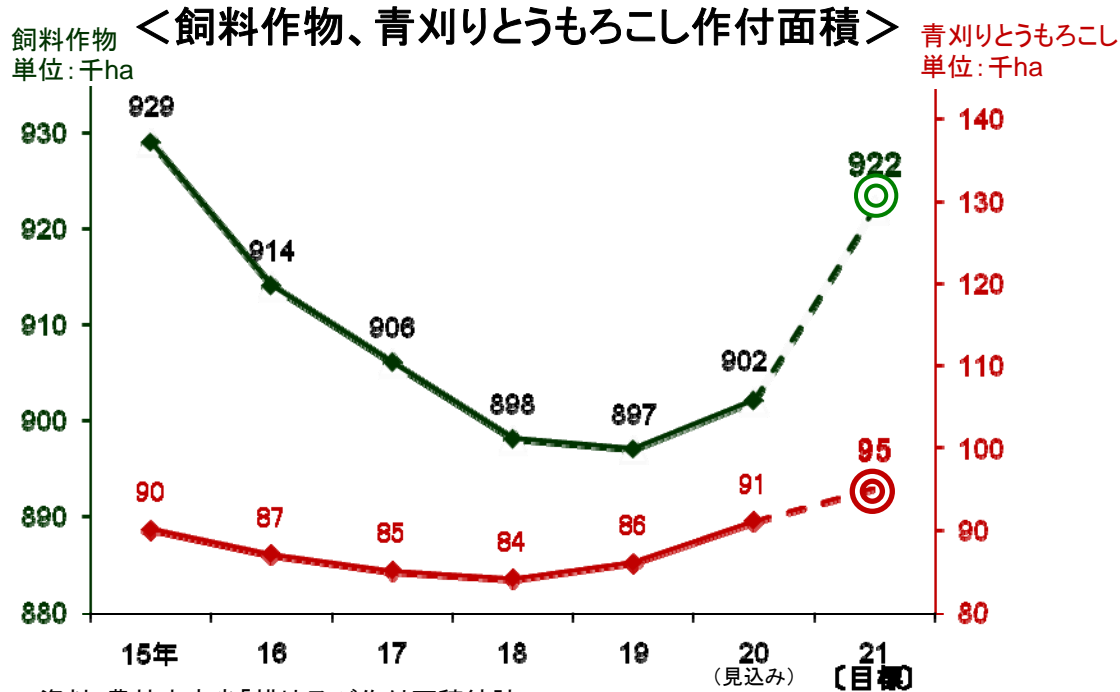
平成21年3月27日

農林水産省

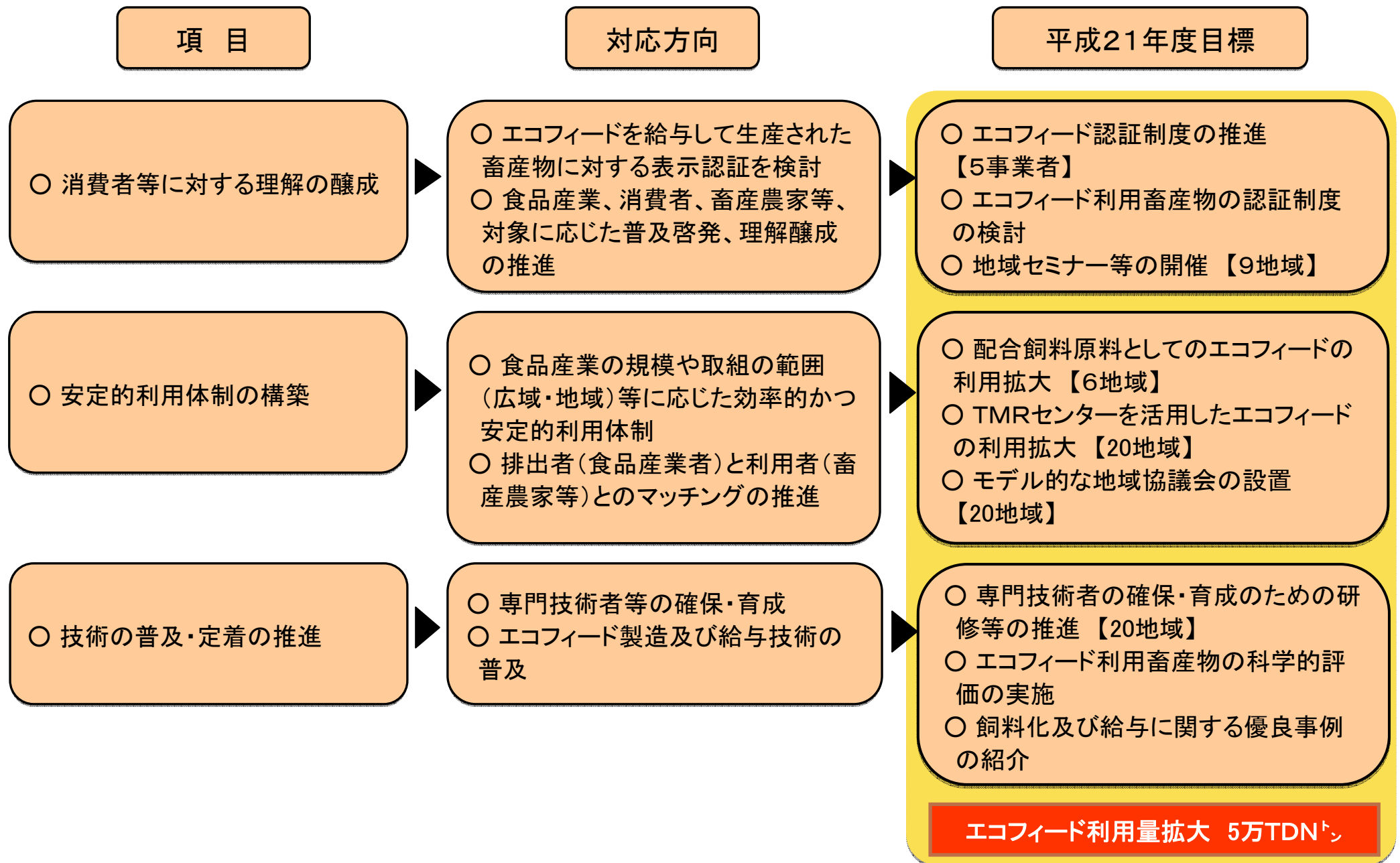
1. 飼料増産

項目	対応方向	平成21年度目標
<ul style="list-style-type: none"> ○水田・畑のフル活用による飼料作物の作付面積拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ○水田フル活用による稲WCS等飼料作物の作付面積拡大と飼料用米の利活用円滑化 ○青刈りとうもろこし作付面積の拡大 ○地域に応じた作付体系の導入や水田裏での飼料生産、緑肥からの飼料作物への転換 	<ul style="list-style-type: none"> ○作付面積拡大 <u>20,000ha</u> ○22年度稲WCS作付 <u>10,000ha</u> ○飼料用米の利活用円滑化 ○青刈りとうもろこし作付面積 <u>95,000ha</u>
<ul style="list-style-type: none"> ○草地改良や優良品種導入による単収や品質の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○草地改良による草地の生産性向上 ○優良品種の開発と導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○草地更新に対する取組拡大 ○高収量・高栄養作物の導入
<ul style="list-style-type: none"> ○放牧の推進 肉用牛の水田放牧頭数 H18 H19 H20(見込み) 4,453頭 6,038頭 6,519頭 	<ul style="list-style-type: none"> ○シンポジウム開催や放牧条件整備、放牧経験牛(レンタカウ)の確保、草地管理技術の改良による放牧の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○水田放牧の取組拡大 (肉用牛水田放牧頭数 <u>7,500頭</u>)
<ul style="list-style-type: none"> ○国内粗飼料の生産・流通の円滑化 <ul style="list-style-type: none"> ・飼料生産の組織化・外部化の推進 ・粗飼料の広域流通の促進 ・国産稲わら等の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○コントラクターの育成・強化、TMRセンターの育成と利用拡大 ○国産稲わらを含めた粗飼料の広域流通・利用拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ○コントラクターによる受託作業面積 <u>13万ha以上</u> ○粗飼料の広域流通の拠点整備、流通粗飼料の品質の確保

○ 飼料増産の動向について



2. エコフィード



○ 全国のエコフィード製造業者について

- ・ 農政局等を通じた調査の結果、平成21年1月現在、197のエコフィード製造業者を把握。うち、137の業者が情報公開に同意。((社)中央畜産会のHPで公開中(<http://ecofeed.lin.go.jp/>))
- ・ 業者毎にエコフィードの原料を分類すると、食品製造副産物を扱う業者が最も多く(136業者)、続いて、余剰食品(スーパー・コンビニ等の売れ残り食品や調理残さ等)を扱う業者(39業者)、動物性原料(魚粉等)を扱う業者(17社)であった。
- ・ 地域別にみると、北海道は農産物加工残さ(ビート・馬鈴薯等)を飼料化する業者が多く、都市近郊(千葉・東京・神奈川等)では余剰食品さを扱う業者が、九州では焼酎粕を扱う業者が多い等、地域に特色がみられる。
- ・ エコフィードの利用を畜種別にみると豚が最も多く、牛(粕類・農産物等を利用)、鶏と続く。
- ・ 情報公開データによると、エコフィードの価格の平均は乾燥で26円/kg(配合飼料のおよそ半分の価格(重量比))、サイレージ(豆腐粕等)21円/kg、リキッド6円/kg。

エコフィード原料		事業所数
食品製造副産物	酒粕類(焼酎粕、ビール粕等)	27
	糟糠類(豆腐粕、醤油粕等)	24
	農産物加工残さ(ビートパルプ、ジュース粕等)	18
	パン屑、菓子屑等	11
	その他(複数混合)	56
余剰食品(売れ残り食品、厨芥類等)		39
動物性原料(油かす魚粉等)		17
その他		5
合計		197

飼料化の手法	価格(円/kg)
乾燥飼料	25.8
サイレージ	21.1
リキッド飼料	5.8

対象家畜	事業者数
牛	87
豚	113
鶏	46

※ 複数回答